

W.M.ヴォーリスと建築

人と人が出会う場所づくりをめざした建築家

建築家であり、社会実業家、キリスト教信徒伝道者でもあったウィリアム・メレル・ヴォーリス。ヴォーリスは、建築事務所を設立し広岡恵三の自宅の設計を請け負います。その時の通訳が恵三の妹、一柳満喜子でした。二人はひかれ合い結婚を約束しますが、当時、日本の子爵の娘と外国人が結婚することは許されず、親戚中に猛反対されました。

そうした中、ただ一人恵三の義理の母である広岡浅子が賛成し親戚中を説得してくれたことにより二人は結婚できることになり、結婚式はヴォーリス自身が設計した明治学院礼拝堂で1919(大正8)年6月に行われました。1941(昭和16)年、太平洋戦争の開戦間近に、ヴォーリスは日本の国籍を取得し、一柳米来留と名乗ります。「米」から「来」て日本に「留」まるとの洒落を込めた名前とされます。

井深樫之助日記の1919(大正8)年6月3日には「午後二時半、講堂(礼拝堂)において、ポーリス氏と

一柳満喜子嬢との結婚式があった。司会者は神戸外国人教会のパーソンという人である。来賓は国内外から約300名で、なかなか賑やかであった。服装は洋服。式後、広岡恵三氏方で、宴会があった。花子※1とともに招かれて両席に出席した」と記されています。

その後、ヴォーリスは、親しみやすい建物をと願い、キリスト教会、学校、幼稚園、病院、社会施設など1000を超える建物を建てました。キリスト教学校では北星学園、遺愛学院、宮城学院、共愛学園、青山学院、横浜共立学園、フェリス女学院、同志社、神戸女学院、広島女学院、西南学院、九州学院、活水学院などの校舎、礼拝堂、寄宿舎、教員住宅を設計・建築しました。これらは、今も貴重な遺産として多くの人に守られ使われています。

※1 井深花子・井深樫之助の妻

めいじがくいんれいはいどう

明治学院礼拝堂(チャペル) →POINT

1916(大正5)年3月に完成。完成当初は南北方向に長い、長方形の姿をしていた。1923(大正12)年9月1日に発生した関東大震災により礼拝堂は深刻な被害を受け、耐震補強と復旧工事が行われた。

1930(昭和5)年から1931(昭和6)年にかけて学生数の増加に合わせて堂内の収容人数を増やすために増築工事が行われた。建物の移り変わりの中で、最も大規模となったこの工事により、上空から見ると礼拝堂の姿は十字形になり、ほぼ現在の姿となった。1916(大正5)年以来、同じ場所に立ちつづけている礼拝堂は明治学院を象徴する建造物となっている。

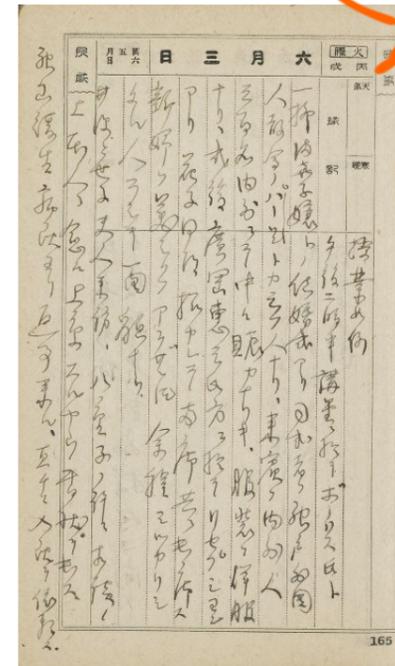
POINT
明治学院礼拝堂で結婚式を挙げる
W.M.ヴォーリスと一柳満喜子



ウィリアム・メレル・ヴォーリス肖像



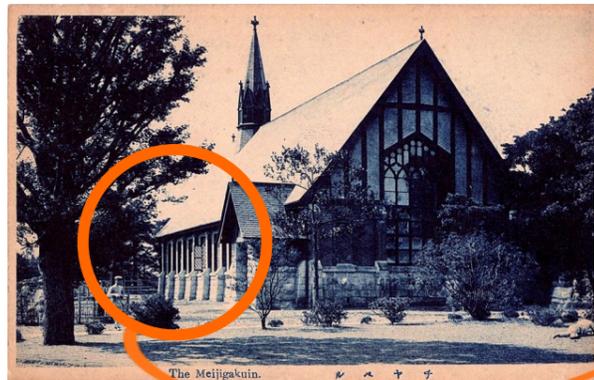
ヴォーリス肖像、明治学院礼拝堂結婚式風景写真共に公益財団法人近江兄弟社(ヴォーリス記念館)所蔵



POINT
井深樫之助日記
1919(大正8)年6月3日

明治学院歴史資料館所蔵

明治学院礼拝堂(チャペル)の今昔



創立40周年絵はがき「1917(大正4年)」明治学院歴史資料館所蔵



POINT
明治学院礼拝堂の昔と現在の姿を比較する

左は1916(大正5)年頃の明治学院礼拝堂。その後、袖廊(矢印の先端部分)などが取り付けられ、現在の姿(写真右)となっている。

アクティブラーニング

- ◆あなたの町で、歴史のある建物を調べてみましょう。いつ頃、何のために、建てられたのかを調べて発表しましょう。
- ◆建物の歴史から、自分の町の産業、文化、社会の移り変わりについて、調べて発表しましょう。
- ◆ヴォーリスの建築について、建築年、目的、特徴をまとめて、発表しましょう。特に、他の建物に比べて、珍しい部分を探して発表してみましょう。

アクティブラーニングのための参考資料

- ひとつやなぎめれる
・一柳米来留著『失敗者の自叙伝』
- ・フォレストブック編集部『浅子と旅する』
- ・三浦三千春著『あさが来た 広岡浅子と満喜子とヴォーリス びっくりポンの物語』
- ・グレース.N.フレッチャー 著『メレル・ヴォーリスと一柳満喜子 愛が架ける橋』
- ・山形政昭著『ヴォーリス建築の100年 恵の居場所をつくる』
- ・「地域の歴史を調べてみよう」(<https://gakusyu.shizuoka-c.ed.jp>)